

今週（4月11日から4月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場、無担保コールO/N物は、積み期終盤となり、地銀を中心に調達余力が徐々に減少する先が多数見られた。レート水準は全体的に高い傾向にあるものの、積み最終日に近づくにつれ、徐々に低下した。レート目線は、都銀・信託業態で▲0.03～▲0.01%程度、地銀・証券業態で▲0.02～▲0.001%程度の気配で推移した。加重平均レートは、週初の▲0.008%から徐々に低下し、積み最終日には▲0.01%台半ばまで低下した。

ターム物は、新積み期スタートのショート物が、前積み期比でやや低下の出会いが見られた。

日銀当座預金残高は、源泉税揚げや年金定時払い等の要因を受け、558兆円程度～566兆円程度の間で推移した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、週半ばに▲0.20%近辺まで低下したものの、週後半には▲0.10～▲0.09%近辺での推移となった。SC個別銘柄では、2Y430～434、5Y145～151、10Y355～366、20Y170～179、30Y65～74、40Y10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は品薄感から強めの展開となったが、週後半には来週の入札ラッシュも意識され、全ゾーンで軟調な展開となった。

12日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円減額の5,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

15日に実施された3M物の入札は、やや弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週は、15日の発行集中日があり、電気機器・卸売・石油等の複数業態で大型発行があった。期明けの発行再開の動きが加速し、週間総額は大幅な発行超となっており、市場残高は右肩上がり23兆円台前半に達している。

発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ね浅いマイナスから0%近傍で決着している。一部では、期間の長いものに対して若干目線を上げる動きもみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/11 (月)	26,821.52	0.235	125.00	△ 0.008	△ 0.200	5,596,800
4/12 (火)	26,334.98	0.240	125.53	△ 0.008	△ 0.202	5,600,300
4/13 (水)	26,843.49	0.235	125.60	△ 0.010	△ 0.185	5,579,200
4/14 (木)	27,172.00	0.235	125.30	△ 0.013	△ 0.145	5,601,800
4/15 (金)	27,093.19	0.240	126.40	△ 0.016	△ 0.106	5,661,300

来週（4月18日から4月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/18 (月)	2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				EURO、London祝日(Easter Monday)
4/19 (火)		TB1Y 35,000億円 4/20発行	流動性供給 5,000億円 4/20発行		3月の米住宅着工件数
4/20 (水)	3月の貿易統計(財務省 8:50)				米ページブック 3月の米中古住宅販売
4/21 (木)		TB6M 34,000億円 4/25発行	流動性供給 5,000億円 4/22発行	交付税借入 13,000億円 5/9借入	3月のユーロ圏消費者物価指数改定値
4/22 (金)	3月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 59,000億円 4/25発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/18 (月)	300	2,300	2,600	国債補完 CP買入 社債買入	100 ▲100 ▲200		▲200	2,400	TB3M発行▲59000償還50000
4/19 (火)	▲1,000	6,000	5,000				0	5,000	
4/20 (水)	▲1,000	▲25,000	▲26,000	社債買入		1,000	1,000	▲25,000	TB1Y発行▲35000償還21000 流動性供給▲5000 エネルギー対策借入▲8000期日8000
4/21 (木)	▲2,000	500	▲1,500				0	▲1,500	
4/22 (金)	▲3,000	▲4,000	▲7,000				0	▲7,000	流動性供給▲5000 交付税借入▲13000期日11000
週間合計	▲6,700	▲20,200	▲26,900	—	▲200	1,000	800	▲26,100	

4/18は日銀予想、4/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間に入り、基準比率が大幅に上昇する（3月積み期間6.0%→4月積み期間13.5%）。一方で、特別当座預金制度の経過措置が終了するため、これまでの過熱感はやや低下すると思われるが、引き続き地銀業態を中心とした調達ニーズの強い展開が続くと予想する。

債券レポ市場のGC T/Nは、▲0.10～▲0.08%近辺での推移が見込まれる。

短国市場は、19日に1Y物、21日に6M物、22日に3M物の入札実施が予定されている。短国買入オペ実施の有無に関しても注視したい。

CP市場は、GWを目前に控えて、集中発行日である20日、25日の事業法人による発行動向が注目される。

主要なイベントは、22日に3月の全国消費者物価指数、海外では、21日に3月のユーロ圏消費者物価指数改定値数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入